

北海道洞爺湖サミット 開催概要

報告書



北海道洞爺湖サミット道民会議
平成20年9月

北海道洞爺湖サミット開催概要

目 次

1	首脳会合開催概要	
(1)	日程及び会合結果	1
(2)	配偶者プログラム	2
(3)	国際メディアセンター	
(ア)	建物	3
(イ)	環境ショーケース	3
(ウ)	開所式・開所記念レセプション	3
(4)	J 8 (ジュニア・エイト) サミット2008千歳支笏湖	4
2	サミット開催に向けて	
(1)	誘致	5
(2)	推進体制	
(ア)	北海道洞爺湖サミット道民会議	5
(イ)	北海道洞爺湖サミット推進局	5
(ウ)	北海道洞爺湖サミット推進本部	6
(エ)	北海道議会 北海道洞爺湖サミット推進特別委員会	6
(オ)	北海道洞爺湖サミット連絡会議・関係市町村連絡会議等	6
3	道民会議の取組	
(1)	取組の基本的な考え方	7
(2)	開催支援	
(ア)	宿泊予約センター	8
(イ)	輸送関係業務	8
(ウ)	インフォメーション・ボランティア	9
(エ)	地域住民懇話会	10
(オ)	弁当供給センター	10
(カ)	新千歳空港での首脳歓迎事業	11
(キ)	NGO	12
(ク)	プレスワーキンググループ	12
(3)	北海道発信	
(ア)	ポータルサイト	13
(イ)	北海道情報誌	13
(ウ)	北海道洞爺湖サミットのタペ	14
(エ)	プレスツアー	14
(オ)	先遣隊等へのPR	15
(カ)	G 8サミット閣僚会合における広報活動	15
(キ)	G 8大学サミット歓迎交流	16
(ク)	食に関する取組	16
(ケ)	北のまるしえ	17
(コ)	地域の食材によるサミットメニュー	18
(サ)	北海道情報館	18
(シ)	Yokoso! HOKKAIDO PASS	19
(ス)	アウトリーチ国・国際機関歓迎レセプション	19
(セ)	「YOSAKOIソーラン」披露	20

(4) おもてなし	
(ア) 北海道洞爺湖サミット一年前七タイイベントと カウントダウンボード等の設置	2 1
(イ) 北海道洞爺湖サミット道民会議シンボルマーク	2 1
(ウ) 歓迎装飾	2 2
(エ) ポスター・リーフレット・動画CMの作成	2 3
(オ) ウェルカム・ギフト	2 4
(5) 未来	
(ア) ガイアナイト	2 5
(イ) ワンガリ・マータイ氏来道	2 6
(ウ) J 8サミットとの交流事業	2 6
(エ) 各国首脳等と道民との交流事業 ～「未来への夢、世界との絆」プロジェクト～	2 7
(オ) アウトリーチ各国首脳等と道民との交流	2 7
(カ) 記念植樹	2 8
4 連携事業	
(1) 雪まつり・冬まつりでの情報発信	2 9
(2) 北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008	2 9
(3) 花いっぱいでお迎えプロジェクト	3 0
(4) 北海道フットパス	3 1
(5) 洞爺湖ふれあい情報TOWN	3 1
(6) おもてなしクリーンアップ運動	3 1
5 消防・保健医療	
(1) 消防	3 3
(2) 保健医療	3 3

1. 首脳会合開催概要

(1) 日程及び会合結果

今回のサミットは、アフリカ諸国や主要経済国等からの参加を得て、合計22カ国・7機関が参加する過去最大規模のサミットとなり、G8の会合のほか、拡大会合が2日間開催された。

【サミット日程】(会場は全てザ・ウィンザーホテル洞爺)

7月7日(月)	7月8日(火)	7月9日(水)
12:30 拡大会合ワーキングランチ(a)	10:00 G8ワーキングセッション 12:00 写真撮影	08:30 拡大会合ワーキングセッション(b) 10:00 主要経済国会合(c) 12:05 写真撮影(c) 12:30 拡大会合ワーキングランチ(c)
14:05 写真撮影(a) 14:30 拡大会合ワーキングセッション(a)	13:00 G8ワーキングランチ 15:00 G8ワーキングセッション	15:30 議長国記者会見
19:00 G8社交行事 (七夕行事) (J8による提言書提出) (YOSAKOI ソーラン)	19:00 G8ワーキングディナー	
19:40 G8社交ディナー		

- ※(a) : G8、アルジェリア、エチオピア、ガーナ、ナイジェリア、セネガル、南アフリカ、タンザニアの各国首脳、アフリカ連合(AU)委員長、国際連合事務総長、世界銀行総裁
 (b) : G8、ブラジル、中国、インド、メキシコ、南アフリカの各国首脳
 (c) : G8、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、メキシコ、韓国、南アフリカの各国首脳、国際連合事務総長、世界銀行総裁、国際通貨基金(IMF)専務理事、経済協力開発機構(OECD)事務総長、国際エネルギー機関(IEA)事務局長



G8社交ディナー(7/7)



G8ワーキングセッション(7/8)



主要経済国会合(7/9)

サミットでは、世界経済、環境・気候変動、開発・アフリカ及び政治問題を主要議題として議論が行われ、議論の結果として「北海道洞爺湖サミット首脳宣言」が発出されるとともに、「世界の食料安全保障」、「テロ対策」、「ジンバブエ」に関する独立の首脳文書が発出された。また、首脳会合の議論をとりまとめた「議長総括」も発表された。

また、G8に加え、アフリカ諸国首脳との拡大会合や、主要経済国首脳会合及び同会合出席国首脳による拡大会合等が開催され、食料価格高騰を含むグローバルな課題をはじめ、原油価格高騰、開発といった諸課題について議論が行われた。

(2) 配偶者プログラム

サミット期間中、G8首脳とともに来道した配偶者には、国が主催した配偶者プログラムが実施された。視察日程の一部に道民会議事業が選ばれるとともに、関係団体の協力により道産の菓子や果物が提供され、取材プレス等を通じて北海道の情報発信が行われた。

【参加配偶者】

国名	氏名等	
日本	福田喜代子	福田首相夫人
カナダ	ローリーン・ハーパー	ハーパー首相夫人
ロシア	スヴェトラナ・メドヴェージェワ	メドヴェージェフ大統領夫人
イギリス	セーラ・ブラウン	ブラウン首相夫人
アメリカ	ローラ・レーン・ブッシュ	ブッシュ大統領夫人
欧州委員会	マルガリータ・ソウザ・ウーヴァ・バロゾ	バロゾ委員長夫人

【プログラム概要】

月日	時間	プログラム	場所	備考
7月7日 (月)	14:00-14:45	十二単着付けデモンストレーション	ウインザー ホテル	
	14:45-15:30	裏千家お茶会		
7月8日 (火)	11:45-12:00	北のまるしえ視察	真狩村	
	12:10-14:00	昼食 (マッカリーナ)		
	14:30-14:45	環境ショーケース視察	留寿都村	道民会議事業
	14:48-15:00	北海道情報館視察		夕張メロン提供・ 道産菓子(チーズケーキ)提供
	15:05-15:50	ゼロエミッションハウス視察		
15:50-16:05	エコカー試乗			
7月9日 (水)	11:10-11:55	J8との交流・火山科学館視察	洞爺湖町	道産菓子(クッキー)提供
	12:00-12:20	記念植樹		道民会議事業



十二単着付けデモンストレーション(7/7)



北のまるしえ視察(7/8)



北海道情報館視察(7/8)

(3) 国際メディアセンター

サミット取材に訪れるプレス関係者の作業を支援するための「国際メディアセンター（IMC）」が外務省によりルスツリゾート敷地内に設置され、約4,000人と見込まれる報道関係者がサミット情報を国内外に発信する作業を行った。

開設期間：平成20年7月5日(土)正午～7月10日(木)正午まで
(期間中24時間運営)

利用対象：北海道洞爺湖サミット取材記者証及び政府発行のID所持者に限定。

(ア) 建物

IMCは、ルスツリゾートの「ホテル&コンベンション」(既設)及び「ザ・メイン」(仮設)で構成され、仮設建物の整備については、同省から委任を受けた国土交通省(北海道開発局)が担当した。

ルスツリゾート第3、第4駐車場部分に仮設建設された「IMC ザ・メイン」は、建材、工法、使用機器等について環境への配慮を行うとともに、間伐材や雪氷冷房など道産資材や北海道に根ざした環境技術が導入された。

(イ) 環境ショーケース

環境ショーケースは、ザ・メインの入口部分及び屋外駐車場に設置された。ザ・メイン入口部分では、我が国の環境の取組などの展示・デモンストレーションが行われた。また、屋外駐車場では、次世代自動車の試乗スペースや我が国のエネルギー、環境に関する先端技術を備えたモデルハウス(ゼロエミッションハウス)が設置された。

(ウ) 開所式・開所記念レセプション

国際メディアセンター及び同センター内に設置した北海道情報館(ホテル&コンベンション内)のオープンに際し、道内外の関係者をお招きし、テープカット及び主要施設の内覧やレセプション開催などを行い、北海道情報館の周知及び国際メディアセンターの円滑な利用の促進を図った。

日時：7月5日(土)11:30-13:30

主催：外務省、北海道洞爺湖サミット道民会議

(記念レセプションは道民会議単独主催)

出席者：G8政府・国内招待者、プレス関係者等 計 約160名



開所式



開所記念レセプションでの挨拶

(4) J8 (ジュニア・エイト) サミット2008千歳支笏湖

J8サミットは2005年のグレンイーグルズ・サミットからサミット議長国がユニセフ等の協力を得て開催されている行事。G8各国から選考された中高生が集まり、サミットに関連した地球規模の課題について討議し、G8首脳と世界に向けた宣言を発表するもの。今年は千歳市において開催され、地球規模の課題に関する討議をまとめた「千歳宣言」及び「J8アクション・プラン」がG8首脳に提出された。日程の一部では、道内の子どもたちとの交流を目的とした「環境と未来を語るつどい」を開催したほか、首脳配偶者との交流、アイヌ文化の視察やコンサートの鑑賞なども行われた。

【概要】

主催者：外務省、ユニセフ

議題：①気候変動、②貧困と開発（主にアフリカ）、③国際保健

開催地：北海道千歳市（支笏湖畔を含む）

参加者：G8各国男女各2名（32名）

非G8の7か国から各1名（7名） 合計 39名

（バルバドス、コートジボワール、イラク、キルギス、モンゴル、ネパール、南アフリカ）

【日程】

日付	時間	プログラム	会場	備考
7月1日(火)		J8代表来道		
7月2日(水)	9:00-11:00	ブリーフィング・セッション	支笏湖ビジターセンター	
	11:00-13:00	開会式兼歓迎行事	支笏湖畔広場	
	13:00-17:00	フィールドトリップ	支笏湖畔広場ほか	
7月3日(木)	9:00-16:30	「テーマⅠ：気候変動」全体会議・グループ討論ほか	千歳市民文化センター	
	19:00-21:00	カルチュラル・イブニング	ホテル日航千歳	
7月4日(金)	9:00-16:30	「テーマⅡ：貧困と開発」全体会議・グループ討論ほか	千歳市民文化センター	
	18:30-20:00	レセプション『Chitose Night』	ホテル日航千歳	千歳市主催
7月5日(土)	9:00-16:30	「テーマⅢ：国際保健」全体会議・グループ討論ほか	千歳市民文化センター	
	19:30-21:00	支笏湖湖水まつり会場散策	支笏湖畔	
7月6日(日)	終日	“千歳宣言”&アクションプランの作成	千歳市民文化センター	
7月7日(月)	9:00-11:00	フォローアップ・セッション	千歳市民文化センター	
	13:00-14:00	J8代表記者会見		
	19:15-19:30	J8代表とG8首脳陣との直接会合 【参加者：J8各国代表1名+途上国代表1名(計9名)】	ザ・ウインザーホテル洞爺	
7月8日(火)	10:00-16:30	「環境と未来を語るつどい」	午前：北海道開拓の村 午後：モエレ沼公園	道民会議主催
	18:30-20:00	「葉っぱのフレディ いのちの旅」鑑賞	恵庭市民会館	
7月9日(水)	11:10-11:55	G8首脳配偶者との面会	洞爺湖ビジターセンター	
	14:00-15:00	アイヌ文化視察	白老町アイヌ民族博物館	
	16:00-17:00	記念植樹	支笏湖地域 丸山遠見	
	18:30-20:00	閉会式・さよならレセプション	休暇村支笏湖	
7月10日(木)		J8代表離道		



J8開会式 知事挨拶(7/2)



「千歳宣言」、「J8アクションプラン」のG8首脳への提出(7/7)



G8 首脳配偶者との交流(7/9)

2. サミット開催に向けて

(1) 誘致

北海道でのサミット開催の誘致については、平成19年2月の胆振町村会及び胆振管内4市長連名の要望にはじまり、3月初めには、洞爺湖町長・議会議長や洞爺湖周辺の観光協会・商工会からの要望や、胆振管内の市町村、経済界、さらには道内経済界・産業界からも要望が示され、3月7日には北海道議会による「2008年主要国首脳会議の北海道開催に関する決議」がなされた。こうした要望・決議を踏まえ、平成19年3月7日、道はサミットの誘致を決定した。

3月26日、官民一体の誘致活動組織「2008年北海道サミット誘致推進協議会」を設立し、政府への要請活動を展開した。要請に際しては、2008年のサミットの主要なテーマが環境になるといわれていたことから、「安全・静穏な環境の提供」、「コンパクトで効率的な開催」、「環境と共生する社会の発信」をキーワードに「北海道ならではの真のリトリート・サミット」の開催を提案した。

4月23日、安倍総理大臣から高橋知事へ「来年の主要国首脳会議を北海道洞爺湖町で開催することとした」旨の連絡があり、要請活動が実を結んだ。

(2) 推進体制

(ア) 北海道洞爺湖サミット道民会議

平成19年5月25日、『「(仮)北海道洞爺湖サミット道民会議」設立発起人会』が設立され、6月6日からは、道内経済界や産業界、道など19名で構成する「ドイツ・ハイリゲンダムサミット北海道訪問団」がハイリゲンダムサミットにおける首脳会議場やプレスセンター等の視察や現地関係者からの情報収集を行うなど、サミットの運営について調査を行った。

これらを踏まえ、6月18日、道内の行政、経済、観光等各分野の計73団体が官民一体となり、北海道全体の受入体制を確立するとともに、併せて関連する事業の実施により本道の活性化に資することを目的とする「北海道洞爺湖サミット道民会議」を設立した。

道民会議は、設立から平成20年8月までに、総会1回、役員会2回、部会延べ8回等の会議を行い、関連事業の企画・実施等の推進にあたった。

道民会議事務局は、平成19年6月に道職員35名からスタートし、民間企業からの派遣職員(18名)や、外務省(1名)、札幌市(2名)、千歳市、洞爺湖町(各1名)を加えて官民一体での運営を行い、サミット直前の6月末には最大で117名の職員が準備にあたった。



(イ) 北海道洞爺湖サミット推進局

道庁内ではサミット誘致決定後の平成19年3月12日にサミットに関するプ

プロジェクトチームを発足し、5月1日には北海道サミット推進局を設置した。サミットの名称決定に伴い、6月には「北海道洞爺湖サミット推進局」とし、サミット直前から当日までは、179名の人員で準備にあたった。

(ウ) 北海道洞爺湖サミット推進本部

道庁内では、サミットの専掌組織として「北海道洞爺湖サミット推進局」を設置したが、平成19年6月18日、道庁各部長や各支庁長等を構成員とする「北海道洞爺湖サミット推進本部」を設置し、全庁横断的な推進体制を構築した。

同推進本部は、設立から平成20年8月までに3回の会議及び6回の幹事会等を開催し、サミットの円滑な実施のための道庁内の総合調整等に努めた。

(エ) 北海道議会 北海道洞爺湖サミット推進特別委員会

北海道議会においては、北海道洞爺湖サミットについて必要な調査を行うことを目的に、平成19年第2回定例会において、19名の議員で構成する「北海道洞爺湖サミット推進特別委員会」が設置された。(6月15日)

平成19年9月には首脳会議場及びIMC建設予定地の現地調査及び開催町における意見交換会を実施したほか、11月には、前回の日本でのサミット開催地である沖縄県を訪問し、主要施設の視察及び関係者との意見交換会を実施した。

また、サミットの円滑な運営や、サミット開催を契機とした本道の経済活性化等について、平成19年8月から翌年7月までの間、5回の中央折衝を実施した。

なお、サミット開催期間中には、IMC及び北海道情報館開所記念レセプション及び2回のアウトリーチ国・国際機関歓迎レセプションに、委員会として出席した。



道外視察（沖縄・万国津梁館）
における説明聴取

(H19.11.20)

(オ) 北海道洞爺湖サミット連絡会議・関係市町村連絡会議等

サミットの円滑な実施を期するため、道内に事務所を有する国の主な出先機関等と道の連携を密にするための「北海道洞爺湖サミット連絡会議」を平成19年6月11日から計4回開催した。

これに加えて、サミット関係市町村が幅広く情報を共有し、抱えている課題を解決することによりサミットの円滑な運営に資することを目的に「北海道洞爺湖サミット関係市町村連絡会議」を平成19年12月6日から3回開催した。

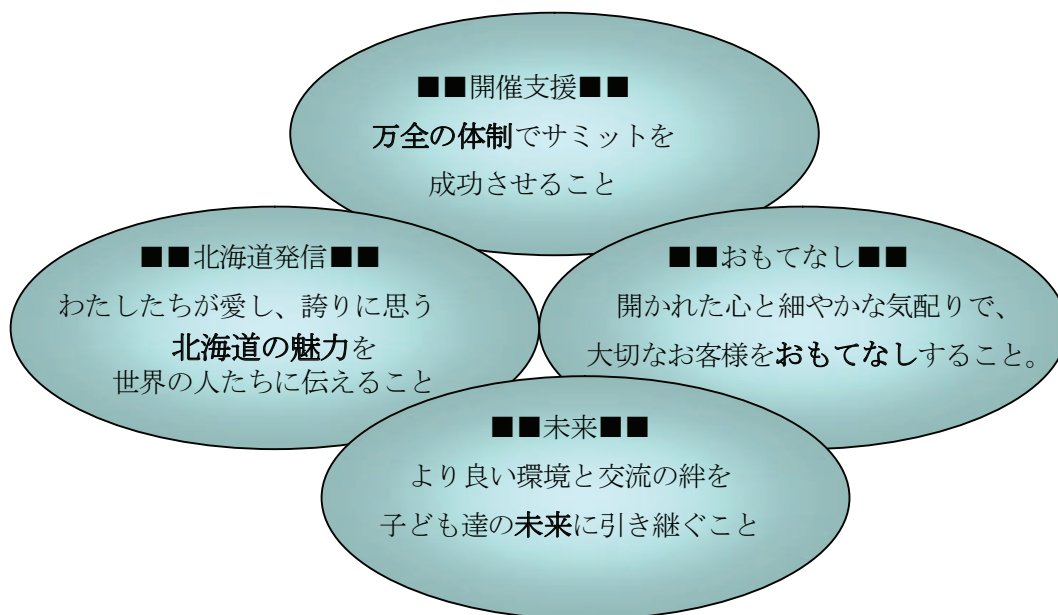
また、地域が抱える疑問・課題等を解決し、サミットの円滑な開催に資することを目的に地元行政機関や住民団体などに出席いただく「北海道洞爺湖サミット市町村関係者懇話会」を平成19年12月18日に開催した。

さらに、外務省や警察庁などの関係省庁と道、関係市町村が、サミット開催まで残された期間に緊密な連携のもと、最終準備作業にあたるため、「北海道洞爺湖サミット懇話会」を平成20年5月19日に開催した。

3. 道民会議の取組

(1) 取組の基本的な考え方

サミットの成功とサミットを契機とした北海道の活性化に向けて、官民一体となって、地元として最大限の協力・支援につとめ、道民一人ひとりが想いをひとつに、おもてなしの心を持ってお迎えするため、事業計画「2008年夏、北海道が未来の扉になる。」を策定し、「開催支援」「北海道発信」、「おもてなし」、「未来」の4つのテーマに基づき、さまざまな取組を展開した。



道民会議が実施する事業の展開に当たっては、広告収入等により必要な財源を確保しながらポータルサイトや情報誌等の各種広報媒体を制作するとともに、市町村や民間団体等との連携事業の展開に当たっては、経済界・民間団体等からなる「環境」や「食」「観光」の3つの分野のワーキングからの提案を反映し、事業化を図った。

さらに、民間企業等から協賛・応援いただきたい項目や手続き等を明らかにした「協賛・応援事業に関する提案募集要領」を制定し、各種広報資材や応援記念商品の発売と売上の一部寄附、レセプション等への食材・飲料、人材の提供・支援等、企業各社の多様な提案により、約230の企業・団体による約360項目の協賛・応援事業が実施されるなど、官民協働による効果的・効率的な事業展開を図った。

(2) 開催支援

(ア) 宿泊予約センター

サミットの開催にあたり、短期的・集中的に来道する関係者に対し、安定的かつ効率的に宿泊サービスを提供するため、民間事業者が運営を行う道民会議公認の機関「北海道洞爺湖サミット宿泊予約センター」を設置した。宿泊予約センターは、宿泊施設と客室の需給調整や宿泊サービスの提供のほか、おもてなし向上に関する取組としての外国人客受入に際する情報提供を行うとともに、運営事業者4社共同によるサミット開催前後の観光客誘致などの取組を行った。

運営事業者：(株)JTB北海道、(株)日本旅行北海道、近畿日本ツーリスト(株)、北海道旅客鉄道(株)のコンソーシアム

設置期間：平成19年10月1日～平成20年9月30日（予定）

取扱件数：延べ 約50万人泊

主な宿泊地：G8各国代表団

所在地	宿泊国
洞爺湖町	日本、アメリカ、ロシア、イギリス、EU
壮瞥町	カナダ、フランス、ドイツ、イタリア
登別市	アメリカ
札幌市	ロシア

アウトリーチ各国代表団

所在地	宿泊国
札幌市	南アフリカ、韓国、アルジェリア、メキシコ、インド、インドネシア、オーストラリア、ナイジェリア、中国、ブラジル、国際連合、世界銀行、IEA、OECD
ニセコ町	オーストラリア
洞爺湖町	中国、インドネシア、オーストラリア
登別市	中国

報道関係者・警備関係者・消防関係者・開催支援業者等
留寿都村、ニセコ町、倶知安町、洞爺湖町、壮瞥町、登別市、札幌市など、10市16町2村

(イ) 輸送関係業務

国は、各国首脳・要人の送迎に当たり、主に新千歳空港や丘珠空港から本会議場まで要人輸送用ヘリにて輸送した（天候により、ヘリを飛ばせない場合は、車列で輸送した）。

また、報道関係者等の宿舎やIMC、洞爺湖温泉街等の移動のため、レークヒルファーム～ザ・ウィンザーホテル洞爺間、ニセコひらふ地区～IMC間、ヒルトンニセコヴィレッジ～グリーンリーフホテル～IMC間等にシャトルバスを運行した。

道民会議では、これら国の取組に対して、道内の車両情報や気象条件等の情報を国に提供する等の協力・支援を行うとともに、バス会社等の協力を得て、新千歳空港からルスツ、ニセコ等の地域への定期路線停留所の新設や路線増便を行い、宿泊予約センターと連携して、予約申し込みの対応を行った。

また、7月5日から10日の間、宿泊変更等の対応や航空券手配等を行うため、道民会議、宿泊予約センター及び民間企業との共同により、IMCホテル&コン

ベンション(ルスツリゾートホテル内)に、トラベルサポートデスクを設置した。

(ウ) インフォメーション・ボランティア

地元支援の一環として、道民会議と市町村が役割を分担し、空の玄関口である新千歳空港では関係団体と連携して道民会議が、多くの外国人の滞在が予定される洞爺地区、ニセコ地区、札幌地区では地元市町村等がインフォメーション機能を担った。

○新千歳空港

道民会議が、空港ターミナルビル内の総合インフォメーションと連携し、空港内到着口4カ所にボランティアを配置し、移動支援や空港施設案内、観光案内などを行った。ボランティアは道内大学生や社会人など92名。サミット関係者や旅行客に対する案内や通訳は、あたたかいおもてなしの心と北海道を知って頂きたいという思いが伝わったのか、多くの方々が笑顔でインフォメーションを後にされた。また、ボランティアの方々からは、「サミットに関わるという貴重な経験ができた。」、「日頃の勉強を役立てられて良かった。」などの感想を頂いた。

○洞爺地区

北海道洞爺湖サミット胆振地域推進会議内の歓迎実行委員会が、洞爺湖町町民会議と連携し、洞爺湖温泉街にインフォメーションカウンターを設置するとともに、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町、伊達市の約10カ所にボランティアを配置し、対応した。(ボランティア登録者：約250人)

○ニセコ地区

(株)ニセコリゾート観光協会が、JRニセコ駅観光案内所及び道の駅ニセコビュープラザに外国人対応が可能な職員を増員して対応したほか、ニセコ町が多言語のパンフレットを作成・配布した。

○札幌地区

札幌市が官民共同による「北海道洞爺湖サミット札幌おもてなし委員会」を立ち上げ、札幌駅、大通、すすきの周辺のインフォメーションを対応した。(ボランティア登録者：約220名)

○ルスツ地区

トラベルサポートデスクとして、道民会議、宿泊予約センター及び航空会社がカウンターを設置し、宿泊、航空券の手配等の対応を行った。ルスツ・リゾートの館内案内や周辺観光案内は、ホテルが対応した。

(エ) 地域住民懇話会

サミットに関する情報を地元関係団体・住民に提供し、サミット開催に対する理解促進と歓迎機運を醸成するとともに、住民等が有する疑問や課題を聴き、その解決の促進によりサミットの円滑な開催に資することを目的に「北海道洞爺湖サミットに関する地域住民懇話会」を道及び関係市町村（洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町、留寿都村、伊達市、登別市、真狩村、ニセコ町）の共催により、外務省及び関係省庁の協力を得ながら開催した。合計13回の開催で、606名の住民等が参加し、サミット開催による農業、漁業など産業活動や住民生活への影響、警備、交通規制や通信インフラ整備などについて質疑があり、サミットの円滑な開催に向けた環境づくりを行った。



洞爺湖町での地域住民懇話会 (H20. 6)



伊達市での地域住民懇話会 (H20. 6)

(オ) 弁当供給センター

主たる会場の洞爺湖近隣や国際メディアセンターが設置される留寿都村、交通の拠点となる新千歳空港近隣やアウトリーチ国・国際機関の要人が宿泊する札幌市内において、警備・消防・医療・現地スタッフ等に対して、安全で安心な食事を大量に継続して供給できる体制を確保するため、北海道洞爺湖サミット道民会議が弁当供給受託業者を構成員とする北海道洞爺湖サミット弁当供給センターを設置し、弁当の供給を行った。

【実施概要】

業務内容：弁当の受注・製造・配送及び空容器等の回収

受託業者：（公募型プロポーザル方式（応募数：10事業者）で決定）

株式会社セブン-イレブン・ジャパンを代表者とするコンソーシアム

株式会社ローソンを代表者とするコンソーシアム

委託料：無料（弁当代は、受託業者が発注者に直接請求）

供給期間：平成20年4月7日～7月15日

供給実績：総供給数 約52万食

環境配慮等：空容器等のリサイクルのほか、生育の早い竹を使った割箸の使用や、配送車両にバイオディーゼル燃料を使用するなど環境に配慮したほか、米は全て道産米を使用し、魚介や肉、野菜なども道産食材がふんだんに使用された。



道産食材をふんだんに使用した
噴火湾産帆立弁当

(カ) 新千歳空港での首脳歓迎事業

来道するG8、アウトリーチ諸国の首脳及び配偶者並びに国際機関の代表及び配偶者に道民の歓迎の意を表すとともに、未来を担う子ども達が各国首脳とふれあう機会をつくるため、各国首脳等が新千歳空港に到着する際の歓迎として、道民代表、地元代表及び道内の児童が各国首脳等を出迎えた。出迎えに当たっては、夜間を除き、児童から各国首脳等に対し、花束を贈呈した。

【出迎え者】

道民代表1名：高橋北海道知事（7月6～7日）、釣部北海道議会議長（7月7日）、鯉谷北海道議会副議長（7月8日）他

地元代表1名：千歳市長（7月6～7日）、苫小牧市長（7月8日）

児童2名：絆プロジェクト応募市町村から19人（7月6日～7日）、地元市町村から6人（7月8日）

絆プロジェクト応募市町村の内、空港歓迎事業に参加した17市町村名

三笠市、壮瞥町、恵庭市、余市町、由仁町、洞爺湖町、美唄市、登別市、真狩村、伊達市、鹿追町、根室市、白老町、帯広市、共和町、札幌市、千歳市

地元市町村（2市）

千歳市、苫小牧市



福田首相到着(7/6)



ブッシュ・アメリカ大統領到着(7/6)



ベルルスコーニ・イタリア首相到着(7/6)



潘・国連事務総長到着(7/7)

(キ) NGO

NGO (Non Governmental Organization)がサミットの開催に併せて様々な活動を通じて提言を行う機会が増えており、北海道洞爺湖サミットにおいても国内外から多くの団体が来道し、政策提言についてのシンポジウムやフォーラムが札幌市内を中心に開催された。

また、デモなどによる抗議行動も行われた。

洞爺湖周辺地域においては、サミット開催期間中に多くのNGOの来訪が想定されたため、当該期間中は宿泊施設の確保が難しい事情を考慮して、洞爺湖周辺地域の伊達市、豊浦町、壮瞥町及び洞爺湖町と協議の上、2カ所の宿営地を用意することとし、主要交通機関における案内対応や対話の促進、宿営地周辺住民への説明会の出席など円滑な受け入れに向けた取組を行った。

宿 営 地：豊浦町森林公園（豊浦町）、オロフレほっとピアザ（壮瞥町）

開設期間：6月23日～7月13日

利用期間：7月 1日～7月10日

利用者数：約1,200人

(ク) プレスワーキングルーム

サミットを取材するために札幌市内に滞在する報道関係者を対象に、インターネット環境を整備したワーキングスペースを提供し、彼らの円滑な取材活動を支援するとともに、北海道情報の提供を行うため、札幌市内に「北海道洞爺湖サミット札幌プレスワーキングルーム」を設置した。ワーキングルームでは、道民会議事務局1名及び臨時職員2名が従事し、期間中の利用者は計20名であった。

設置場所：札幌市中央区大通西3丁目北洋銀行本店地下2階（地下鉄大通駅地下コンコース内）

設置期間：平成20年7月5日正午～7月10日正午まで

利用時間：午前9時～午後9時（初日及び最終日を除く）

(3) 北海道発信

(ア) ポータルサイト

サミットに向け、情報発信・情報共有をはかるとともに、この機会を利用し、食や観光などの北海道の情報を道外をはじめ世界に向けて発信するため、平成19年11月、北海道洞爺湖サミット道民会議ポータルサイトを開設した。ポータルサイトでは、サミットに関連した情報や道民会議が主催した事業や関連した事業、北海道に関する情報を発信した。

開設以来、国内外から多くのアクセスがあり、サミット終了時点で約157万件のアクセスを記録した。

なお、ポータルサイトの開設・運営については、民間企業の広告収入等で賄う方法で実施した。

〈具体的な掲載内容〉

- ・北海道洞爺湖サミット関連情報
サミットの概要、G8各国概要、過去のサミット一覧、2008年G8関連会合一覧、交通情報等
- ・道民会議主催・関連事業
道民会議概要、道民会議事業計画及び取組状況、主催・関連事業等スケジュール表、サミット通信、民間企業等との協働の取組等
- ・北海道関連情報
北海道の環境への取り組み、観光情報、食情報、北方領土、アイヌの文化と歴史等



(イ) 北海道情報誌

国内外の報道機関及び各国の代表団関係者等に、北海道に対する理解を深めていただくとともに必要な案内情報の提供を行うため、北海道の基本データや地域のおすすめ情報の紹介、主な地理・施設や移動手段等を案内する情報誌を企業等との連携を図りながら、日本語版及び英語版で作成・配付した。

なお、情報誌の制作については、民間企業の広告収入等で賄う方法で実施した。

【 情報誌の概要 】

区分	北海道データブック	北海道エリアガイド	北海道洞爺湖サミットハンドブック
発行時期	H19.11	H20.2	H20.6
概要	北海道の基本データ集 ・あゆみ、自然環境、人口・生活、経済・産業、国際交流等	道内各地域の話題 ・環境特集、6圏域別の食・観光・文化等紹介、全道食材マップ、地図・交通案内	サミット圏域等の案内情報 ・地図・アクセス・見どころ、サミット関連情報、滞在利便情報
発行部数	日本語 6,000 英語 8,000	日本語 7,000 英語 8,000	日本語 6,000 英語 5,000

サミットの際には、来道した国内外プレスや各国代表団等の関係者に対し、上記3種の情報誌のほか、道庁各部が作成した観光、アイヌ文化、企業誘致、北方領土に係る広報資料、及び企業・団体からの協賛グッズに、道民会議会長からのウェルカム・カードを添付した「広報資料セット」を宿泊先ホテルの協力のもと、各室に据え置き配付した。

(ウ) 北海道洞爺湖サミットの夕べ

平成19年11月16日、在京外国人記者やサミット関係大使館関係者などをお招きし、北海道の魅力を伝えるとともに、北海道洞爺湖サミットの開催機運の醸成のため、東京都内のホテルにおいて「北海道洞爺湖サミットの夕べ」を開催した。

道内の色鮮やかな花卉に彩られた会場にお集まりいただいた約450人の出席者には、多くの企業・団体からご協力をいただいた道産食材をふんだんに使った食事や道産のお酒、スイーツを提供し、北海道の民謡や道産木材でつくられたパイプオルガンの演奏も行った。この他、道内の観光、アイヌ文化紹介等のパネルや自然をテーマにした写真を多数展示する等、北海道のPRに努めた。



来賓らによる鏡開き



道産食材をふんだんに使用した数々の料理

(エ) プレスツアー

在京外国人記者等に対し、本道各地の様々な魅力を直接知っていただき、世界に発信していただくことを目的に、プレスツアーを全道5コースで実施した。

実施に際しては、各地域で「おもてなしプラン」を作成の上、環境への取組、アイヌ文化、地域の食材、郷土芸能など、道内各地の魅力を世界に発信するためのご協力をいただいた。参加者は、各国の通信社・新聞社の東京支局特派員など合計62名となり、これまでに30本以上の記事が世界各地に配信されている。

【プレスツアーの概要】

第1回	月 日	平成19年11月20日(水)～11月22日(金)
	訪問地	釧路、十勝、日高、胆振等
	参加者	中国、香港、ドイツ等から10名
第2回	月 日	平成19年12月12日(水)～12月14日(金)
	訪問地	檜山、渡島、胆振、石狩等
	参加者	タイ、イギリス、ロシア等から11名
第3回	月 日	平成20年2月20日(水)～2月22日(金)
	訪問地	網走、根室
	参加者	台湾、ロシア、中国等から18名
第4回	月 日	平成20年4月2日(水)～4月4日(金)
	訪問地	上川、空知、胆振等
	参加者	インドネシア、ロシア、イタリア等から12名
第5回	月 日	平成20年5月14日(水)～5月16日(金)
	訪問地	留萌、宗谷
	参加者	中国、ヨルダン、インド等から11名



釧路湿原を取材する海外プレス(第1回)



三笠盆踊りで地域の方と交流する海外プレス(第4回)

(オ) 先遣隊等へのPR

各国の先遣隊(本国政府のロジ関係者がロジに関する準備状況確認のため、来道するもの)の視察の際、食をはじめとする北海道の魅力を発信し、おもてなしの心を伝える機会としてレセプションを開催した。

レセプションでは、北海道のセールスポイントのプレゼンテーションを行うとともに、道産食材を活用した食事を提供し、各食材に当該国母国語によるキャプションを付けて道産食材のPRを行った。また、会場内では、観光、企業立地、農林水産業等のパネルの設置、観光に関するDVDの放映等を行うとともに、伝統芸能の披露などにより、本道のPRに努めた。

〈レセプション対応日程・G8〉

月 日	国	場 所
2月26日(水)	カナダ	洞爺サンパレス
3月 4日(火)	イタリア	札幌グランドホテル
4月24日(木)	イギリス	ホテルコムズ千歳空港
5月12日(月)	ロシア	洞爺湖畔亭
5月12日(月)	EU	ホテル山水
6月 3日(火)	ドイツ	ザ・ウィンザーホテル
6月 9日(月)	フランス	ザ・ウィンザーホテル
6月15日(日)	アメリカ	ザ・ウィンザーホテル

〈レセプション対応日程・アウトリーチ〉

月 日	国	場 所
4月23日(水)	インドネシア	札幌後楽園ホテル
4月23日(水)	オーストラリア	札幌プリンスホテル
6月 2日(月)	6カ国(※)	ルネッサンスホテル
6月 6日(金)	中国	ルネッサンスホテル
6月 9日(月)	韓国	京王プラザホテル

※ブラジル、インド、インドネシア、メキシコ、南アフリカ、エチオピア

(カ) G8サミット閣僚会合における広報活動

サミットに先立って開催されたG8閣僚会合を取材する国内外のプレスに対し、北海道洞爺湖サミットと北海道の魅力をPRするため、関係省庁及び地元関係者の協力を得て、各会合のプレスセンター内等に特設ブースを設置し、道民会議公式ポスターや卓上のぼりの掲出等を行うとともに、北海道情報誌、サミット啓発リーフレットやYokoso! HOKKAIDO PASS 広報チラシの配布など、多彩な広報活動を実施した。



労働大臣会合での北海道ブース

に立ち寄るプレス

広報活動を実施した閣僚会合	開催期間	開催都市
労働大臣会合	5月11日～13日	新潟市
環境大臣会合	5月24日～26日	神戸市
第4回アフリカ開発会議	5月26日～28日	横浜市
エネルギー担当大臣会合	6月 7日～ 8日	青森市
財務大臣会合	6月13日～14日	大阪市
科学技術担当大臣会合	6月15日	名護市
外務大臣会合	6月26日～27日	京都市

(キ) G8大学サミット歓迎交流

地球の持続可能性実現のために大学が果たすべき責務と、それらを達成するための具体的な取組について議論し、学术界から国際的な努力を促進し、また、それに対して貢献することを目指し、「グローバル・サステナビリティと大学の役割」をテーマとする「G8大学サミット」が開催された。

会議の結果は、地球の持続可能性を達成するための調査等の役割を認識し、大学自らの持続可能性の達成に向けた取組を約束の上、サミットに参加する首脳達に気候変動問題等に対する科学的で適正な政策の実施を求めることを内容とする「札幌サステナビリティ宣言」として、7月4日、福田首相に手交された。

道民会議は、世界13カ国から訪れた大学関係者に歓迎の意を表し、北海道の魅力を紹介するため、北海道大学との共催でG8大学サミットウェルカムパーティを開催した。

〈G8大学サミット概要〉

開催期間：平成20年6月29日（日）～7月1日（火）

開催場所：札幌市（京王プラザホテル）

参加大学：計35大学

G8各国27大学（うち日本14大学）及びその他6か国（中国、韓国、インド、オーストラリア、南アフリカ、ブラジル）から7大学及び国連大学

参加者数：約140人

(ク) 食に関する取組

道民会議は、道、道議会及び道内経済団体と連携して、外務省をはじめとする関係省庁に対して要請を行うなど、サミット行事における道産食材の積極的な活用に取り組んだ。

〈道産食材情報の収集及び活用〉

質の高い地元食材のサミット関連での活用に関する希望調査を道内市町村に行った。これにより、14支庁管内119市町村から284種類の食材を「サミット向け市町村一押し食材リスト」としてまとめ、外務省や関係ホテル等への提供や道民会議ホームページへの掲載等、サミット関係施設における活用促進を図った。

〈首脳会議場に対する取組〉

首脳向けの食事については、外務省及び首脳向けの食事のプロデュースを担当したザ・ウィンザーホテル洞爺の総料理長等に対して上記「サミット向け市町村一押し食材リスト」を提出するとともに、先方からのリクエストに応じて産地等の紹介を行った。こうした取組と相まって、総理夫妻主催G8社交ディナーや、ワーキング・ランチ、ワーキング・ディナー、配偶者食事会、日米首脳会談後の総理夫妻主催夕食会などで道産食材が数多く活用された。

〈国際メディアセンターに対する取組〉

国際メディアセンターにおけるプレス関係者向けの食事については、外務省や

道内関係機関とともに、4つのレストランのコンセプトの立案などを行う「食の連絡調整会議」に参画し、道産食材の活用を働きかけるとともに、外務省から食事提供の委託を受けたルスツリゾートの依頼に基づいて産地等の紹介を行った。

また、外務省及び道内関係機関と連携し、道内6ホテルの15名の調理師をIMCザ・メイン内のレストランへボランティア派遣する支援を行った他、同レストラン入口における道産食材及び農村景観のプロモーション映像の放映や道産食材マップの配布など、本道農業及び道産食材のPRを実施した。

さらに、「北海道情報館」において、道産のチーズやワインなどの試食・試飲を実施するなど、プレス関係者等に対する情報発信に努めた。

〈その他関係施設に対する取組〉

アウトリーチの国々やG8各国政府職員などが滞在した札幌市内や洞爺湖畔のホテルに対しては、5月27日に「道産食材でサミットをお迎えする集い」を札幌市内で開催し、試食などを通じて各ホテルの料理長等に道産食材の質の高さを再認識いただくとともに、サミットに際して訪れるお客さまを良質な道産食材でお迎えするための機運醸成に努めた。

〈配偶者プログラムに対する取組〉

首脳配偶者に良質な道産菓子を提供するため、有識者から構成される「道産菓子検討委員会」を設置し、道内関係団体と連携して道内菓子メーカー等から菓子を募集するとともに、応募のあった製品全てに同委員会の意見を付して外務省へ推薦を行った。この結果、配偶者プログラムにおいて、7月8日のIMC（ゼロエミッションハウス）視察の際に道産チーズを活用したチーズケーキが、7月9日のJ8との交流（洞爺湖ビジターセンター）の際に道産小麦を活用したクッキーが、それぞれ採用された。

(ケ) 北のまるしえ

留寿都村のルスツリゾートに「国際メディアセンター」が設置され、後志支庁管内が海外から大きな注目を浴びることも踏まえ、新鮮で高品質な地域の食材等を出展するイベントを市場(マルシェ)形式で開催し、後志の魅力の一つである「食」を中心に、海外プレスの方々を介してPRした。



「北のまるしえ(物販ブース)」

〈「北のまるしえ」概要〉

開催期間：平成20年7月5日（土）、6日（日）
及び8日（火）

開催場所：真狩村まっかり温泉駐車場

実施主体：しりべしサミット・ウェルカムプロジェクト実行委員会

出展品目：野菜類31品、魚介類22品、花卉10品、加工品50品

来場者：7月5、6日：約2,800名 7月8日：G8首脳配偶者来場



北のまるしえを訪れた首脳配偶者

(コ) 地域の食材によるサミットメニュー

地域の食材にこだわったメニューを創作してきた後志支庁管内のレストラン等では、サミットの開催を契機に後志管内の食を発信していくため、地域の食材をメインとしたメニューを「サミット共通メニュー」を創作し、各レストランが連携して発進力を高め、地域の食材をPRした。



サミットメニューの一例

(サ) 北海道情報館

「国際メディアセンター（IMC）」を利用するプレス関係者を通じ、本道の情報を世界に発信していただく拠点として、「北海道情報館」をIMCホテル&コンベンション内に開設した。

「北海道の魅力を体験・体感できる場」・「北海道の取材を触発・支援する場」・「癒し、休息、遊びを提供する場」をコンセプトに、館内を「エントランス」、「G8との関係」、「アイヌ文化」、「海」、「大地」、「冬」、「森」、「コミュニケーション」の8つのゾーンに分け、本道の個性と魅力を発信した。

開設期間：平成20年7月5日（土）正午～7月10日（木）正午

利用時間：午前10時～午後10時（初日及び最終日を除く）

面積：約460㎡

利用者数：延4,964人

展示構成：

ゾーン名	展示概要
エントランス	北海道の自然や様々な表情を写真・映像で表現、北海道の花（ハマナス、ラベンダー等）、北海道のジオラマ
G8との関係	G8各国と北海道の交流を示す模型・写真、北方領土
アイヌ文化	チセ(伝統的家屋)の復元、祭具・衣料・生活用品
海	流氷、水産物(サケ、コンブ、ホタテ)、副産物の高度利用製品
大地	イメージ映像(牧場・畑等)、食の安心・安全(品種改良・品質管理の取組)
森	体験型遊具(パークゴルフ、木のおもちゃ)、研究開発事例(ケミカルバイオテクノロジー、人獣の感染症等)
冬	北方住宅、除雪技術、冬の福祉用品、雪まつり模型
コミュニケーション	プレス関係者からの質問対応、乳製品・ワイン等の試食・試飲



海のゾーン(流氷の現物展示)



森のゾーン(木のボールプール)

(シ) Yokoso! HOKKAIDO PASS

サミットのために来道される外国報道機関の方々を対象に、列車やバスで広く北海道を周遊し、本道の魅力への理解を深め、PRしていただくことを目的とした取材用無料パス「Yokoso! HOKKAIDO PASS」を発行した。



パスの発行にあたっては、北海道バス

ステッカーを貼り付けたバス

専用ステッカー

協会及び加盟のバス事業者22社(13都市地区)、JR北海道の協力のもとに、パス利用の円滑化やサミットの歓迎機運を高めるため、パス利用により乗車可能なバス約3,200車両に専用ステッカーを貼り付けた。

パス利用期間：サミット前後の7月2日(水)～6日(日)

又は7月10日(木)～14日(月)

パス引換者数：17か国123名(アメリカ、中国等)



Yokoso!HOKKAIDO PASS
広報チラシ

(ス) アウトリーチ国・国際機関歓迎レセプション

サミット期間中には、7月7日及び9日の拡大会合に出席する首脳及び国際機関の長が札幌市内に滞在され、道民会議、北海道及び札幌市が主催し、これらの方々への歓迎レセプションを開催し、各国首脳等に歓迎の意を表するとともに、地元との交流を図った。

【開催概要】

〈7月7日の拡大会合に出席する首脳等を対象としたレセプション〉

日 時：平成20年7月6日(日) 20時～21時30分

場 所：札幌パークホテル3階パークホール

出席者：111名(内、各国代表団15名)

アルジェリア：アブレルケデル大臣

南アフリカ：シーラ・ングバネ大使夫人

概 要：「北海道の夏・祭り」をコンセプトに、各国代表団による櫓点灯、来道を記念したミスさっぽろから各国代表団への花束贈呈のほか、太鼓や北海盆踊りの披露も行った。



各国代表と知事、札幌市長による櫓点灯式

〈7月9日の拡大会合に出席する首脳等を対象としたレセプション〉

日 時：平成20年7月8日(火) 19時30分～21時

場 所：ルネサンスサッポロホテル 地下1階ボールルーム

出席者：221名(内、各国代表団93名)

南アフリカ：ムベキ大統領	中 国：胡錦壽国家主席
韓 国：李明博大統領	国 連：潘基文事務総長
OECD：グリア事務総長	IEA：田中伸男事務局長

概 要：「地球環境への願い」をコンセプトに、来道を記念した札幌市内の小学生による各国首脳への花束贈呈や、札幌交響楽団による演奏披露等を行った。

小学生から各国首脳への
花束贈呈



(セ)「YOSAKOIソーラン」披露

7月7日夕刻のG8社交行事において、「新琴似天舞龍神」及び「平岸天神」による「YOSAKOIソーラン」が披露され、G8首脳御夫妻に北海道の夏の代表的なイベントを鑑賞していただいた。道民会議では、外務省からの協力要請に基づき、「YOSAKOIソーラン祭り」組織委員会と協議の上、演舞チームを決定するとともに、出演者等の送迎などの支援を行った。

【開催概要】

日 時：平成20年7月7日(月) 夕刻

場 所：ザ・ウィンザーホテル洞爺

演舞者：「新琴似天舞龍神」・「平岸天神」



新琴似天舞龍神



平岸天神

(4) おもてなし

(ア) 北海道洞爺湖サミット一年前七タイイベントとカウントダウンボード等の設置

サミットの1年前となる平成19年7月7日を記念して、「北海道洞爺湖サミット1年前七タイイベント」として、安倍総理大臣(テレビ会議出演)、若林環境大臣他関係者と伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町の小学生47人が参加し、『「美しい星への願い」北海道洞爺湖サミット1年前七タイイベント』を開催した。

イベントでは、環境問題やサミットへの願い事を書いた短冊を笹に結びつけ、また、七タイイベント終了後、サミットに向けた歓迎機運を盛り上げるため、洞爺湖ビジターセンター敷地内において、企業協賛により「北海道洞爺湖サミットカウントダウンボード」を設置し、その除幕式を行った。

なお、7月18日には道庁前庭にもカウントダウンボードを、また、12月には新千歳空港ターミナルビルに、平成20年1月にはJR札幌駅前南口広場にそれぞれ企業協賛によりカウントダウンモニュメントを設置し、サミットの歓迎機運の盛り上げを図った。

〈「美しい星への願い」北海道洞爺湖サミット1年前七タイイベント〉

日 時：平成19年7月7日

17:00-18:30

会 場：洞爺湖ビジターセンター

主催者：内閣官房・内閣府、外務省、経済産業省、環境省、北海道、伊達市、洞爺湖町、壮瞥町、豊浦町



七タイイベント

〈カウントダウンボード除幕式〉

日 時：平成19年7月7日

18:35-18:50

会 場：洞爺湖ビジターセンター

主催者：北海道



カウントダウンボード除幕式後の記念写真

(イ) 北海道洞爺湖サミット道民会議シンボルマーク

「おもてなしの心」を持って北海道洞爺湖サミットを歓迎する取組を促進するため、道民会議のシンボルマークを道内から公募し、平成19年10月選定した。

選定されたマークは、「^{いい}e 笑顔で、おもてなし。」のコンセプトのもと、北海道のすばらしさに自信をもって“おもてなし”をしたいとの想いをこめ、上向きのユーモラスなキャラクターでサミットへの期待感を表現。マーク全体でecologyの「e」と北海道の大地の「みどり」、海の「青」をイメージしている。

オール北海道による歓迎・おもてなし気運の醸成を図るため、平成19年10月から平成20年6月までの期間、一般の企業・団体等にシンボルマーク活用を広く呼びかけた結果、約270の企業・団体等から500以上のアイテムでご使用いただいた。

また、道民会議では公式ポスター・リーフレット・ガイド・ポータルサイト、道民会議主催イベント、道民会議関係企業・団体による各種歓迎装飾などで積極的に活用したほか、協賛・応援企業・団体等にも使用いただいた。

(シンボルマーク)



(使用例)



J R 快速エアポート

(ウ) 歓迎装飾

道民会議ではサミット開催までの間、道内での統一感のある歓迎装飾を進め、サミット歓迎気運の醸成を図るため、市町村や民間企業の協力のもと、道内の公共施設やJ R北海道主要駅・新千歳空港といった道内主要箇所において歓迎装飾物の掲出を行った。

その際、統一感のある歓迎装飾物の掲出が推進されるよう、広告代理店の協力により、道民会議シンボルマークを使用した歓迎装飾共通デザインとして、懸垂幕、横断幕、バナー、のぼりをそれぞれ2種類、計8種類を作成した。

サミット開催200日前にあたる平成19年12月20日を契機に、交通機関や市町村、民間企業において共通デザイン等を使用した歓迎装飾物を掲出するとともに、J R主要駅・道内各空港・道内小中高校・市町村・道庁・各支庁において、北海道洞爺湖サミット道民会議公式ポスターの掲出を開始した。

さらに、サミット開催直前には札幌市内、新千歳空港、洞爺湖町、留寿都村、真狩村、ニセコ町、倶知安町において、関係機関の協力を得て歓迎バナーを掲出した。

〈共通デザイン〉

例：横断幕



〈サミット開催200日前を契機とした歓迎装飾の例〉



北海道庁1階ロビー



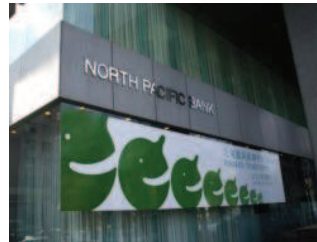
札幌市役所南側玄関



J R札幌駅コンコース



新千歳空港ターミナルビル
2階センタープラザ



北洋銀行本店ビル



北海道銀行本店ビル

〈サミット開催直前の歓迎装飾の例〉



札幌市駅前通り



洞爺湖町
歓迎バナー



倶知安町内
北電電柱歓迎バナー

(エ) ポスター・リーフレット・動画CMの作成

①ポスター

サミットに対する関心を高め、おもてなしや環境配慮等の具体的な行動を誘発促進することを目的に、北海道洞爺湖サミット道民会議公式ポスターを作成した。

図柄は、平成 19 年 9 月から公募を行い、10 月に応募作品 10 点全てを公式ポスターとして決定し、制作については、民間企業等の広告収入で賄う方法で行うとともに、制作における環境配慮を選考基準と示したことから、用紙に国産間伐材を利用した用紙を活用するなど、環境に配慮した取組も見られた。

10 種類の公式ポスターは、各 2000 枚作成され、サミット開催まで三期に分けて、道内市町村や関連企業・団体及び都府県や各府省、在京各国大使館並びにサミット関連行事などに掲出し、サミット開催の P R と歓迎の機運醸成を図った。

【ポスター一覧】



②リーフレット

サミットの概要と開催に向けた道民会議の取組について分かり易く紹介するとともに、歓迎気運の盛り上げと道民会議への協力を呼びかけることを目的としたリーフレット（日英版）を、企業の協賛により 2 種類、各 7000 部作成した。

<ver1 : H19.10 作成>

<ver2 : H20.5 作成>



③動画CM

サミット関係者へのおもてなしの気持ちを伝えるとともに、北海道の環境、観光の魅力のPRと来道呼びかけの動画CM（おもてなし編・観光編・環境編、各30秒）を平成20年2月に作成し、道民会議ポータルサイトや関連行事、航空機内や企業店舗の大型ビジョンなどで放映した。



大型ビジョンでの動画CM

(オ) ウェルカム・ギフト

G8各国首脳と配偶者及びアウトリーチ各国に北海道民の歓迎の気持ちを込め、北海道滞在を末永く思い留めていただくことを目的とし、北海道ゆかりの品をウェルカム・ギフトとして贈呈した。

G8各国首脳夫妻には歌志内の企業作製の革製鞆を、拡大会合（気候変動）出席各国首脳には小樽のガラススタジオ作製の花瓶を、また、拡大会合（アフリカ諸国）出席各国首脳には富良野のガラス工房作製の花瓶を謹呈した。

これらの贈呈品は、アイヌ文様の風呂敷や置戸で作製された木製ギフト箱で梱包したほか、置戸で作製された木製フレーム及び赤平の企業作製の革製フレームで装飾したウェルカム・メッセージを添えるなど、北海道製品の世界にむけた情報発信を行った。

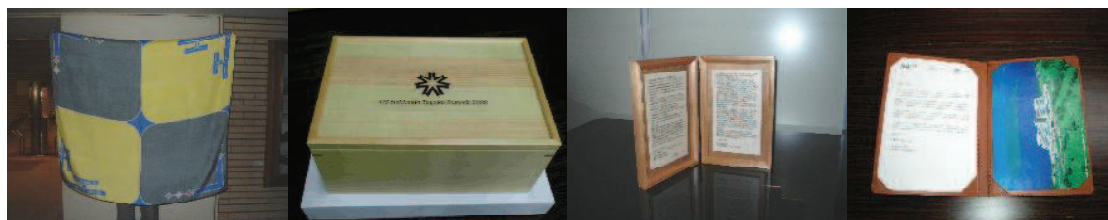


G8首脳ご夫妻（紳士用）

G8首脳ご夫妻（婦人用）

気候変動出席首脳

アフリカ諸国出席首脳



アイヌ文様の風呂敷

木製ギフトケース

木製フレーム

革製フレーム

(5) 未 来

(ア) ガイアナイト

地球環境問題を主要なテーマとしたサミットに向けて、脚本家倉本聰氏の提案を踏まえ道民一人ひとりが電気を消して、ローソクの灯り中で環境問題などについて考える「ガイアナイト」を道民運動として実施することを呼びかけた。

サミット開催まで100日を切った3月30日及びサミット開催初日の7月7日に「ガイアナイト」を行った。

【3月30日のガイアナイト】

各家庭でのガイアナイトの実施や、商店街・オフィスビル・観光ライトアップ施設等での電気の消灯、飲食店でのキャンドルディナー、各支庁におけるガイアナイト・イベントの実施を呼びかけた。

個人参加表明件数 : 約10,600件
企業・団体参加表明件数 : 約300件
ガイアナイト・イベント : 全道70カ所で約2,700名参加
照明施設の消灯 : 約400施設



ガイアナイト イン とかち



ガイアナイト in 赤れんが



さっぽろテレビ塔 (消灯)

【7月7日のガイアナイト】

各家庭でのガイアナイトの実施や飲食店等でのキャンドルディナー、照明施設の消灯への参加を全国に呼びかけた。6月22日には東京でガイアナイトの趣旨について音楽やトークを通じて理解してもらおう「ガイアナイト・イベント in Tokyo」を実施した。

また、全国の小学生に対し、未来へのメッセージを込めた思い思いのキャンドルアートを募集した。

個人参加表明件数 : 約58,600件
企業・団体参加表明件数 : 約350件
照明施設の消灯 : 約180施設
キャンドルディナー実施店舗 : 約150施設
キャンドルアート応募総数 : 85作品



キャンドルアート道民会議会長賞
「花火(平和な空に願いをこめて)」



ガイアナイト・イベント in Tokyo



ガイアナイトフェスタ in そらち

(イ) ワンガリ・マータイ氏来道

ノーベル平和賞受賞者で前ケニア環境副大臣のワンガリ・マータイ女史が6月3日に来道し、知事と対談を行った。対談は、北海道環境宣言で提唱する「地球を守る心」、「もったいない心」、「自然と共生する心」の3つの心を中心に、「環境との調和」をテーマに、J8コンテストに参加した道内高校生との意見交換も交えながら行った。



マータイ女史との記念写真

道民会議では、対談の様相などの映像を「北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008」で放映し、サミットに向けた機運の醸成や道民の環境意識の一層の向上に向けた取組に活用した。

(ウ) J8サミットとの交流行事

J8サミットに参加する世界の子どもたちと北海道の子どもたちとの絆を育むため、J8サミット参加者と道内中高校生が北海道の自然、歴史、文化の体験や環境問題に関する意見交換などの交流を行う「環境と未来を語るつどい」を開催した。当日はパン・ステク国連事務総長夫人とアグネス・チャン日本ユニセフ協会大使も参加し、参加者にメッセージを述べられた。

実施に際して、参加者への記念グッズなど企業等の協賛をいただいた。

【環境と未来を語るつどい】

開催日：平成20年7月8日（火）

開催地：札幌市（北海道開拓の村、モエレ沼公園）

主催：北海道洞爺湖サミット道民会議

共催：北海道、北海道教育委員会、札幌市

協力：北海道洞爺湖サミット札幌おもてなし委員会、北海道札幌平岸高校

参加者：J8サミット参加者、J8コンテスト1次選考通過者（北海道内）、専門高校生環境サミット参加者、北海道高校生環境サミット参加者、こども環境サミット札幌参加者代表、千歳市中高生代表、イオンチアーズクラブメンバー
合計169名



北海道開拓の村の視察



モエレ沼公園での意見交換

日程：

場所	時間	内容
開拓の村	10:00 ～11:30	○開会 ○視察 北海道開拓時代の暮らし、文化、自然、産業などを体感
モエレ沼公園	12:10 ～16:30	○専門高校生「環境サミット」展示発表 ○J8と道内中高生との交流会 ・こども環境サミット札幌、北海道高校生環境サミットなどの発表 ・意見交換 ・北海道札幌平岸高校制作「環境アニメ」 ○北海道の文化体験(PMF鑑賞、YOSAKOIソーラン体験) ○閉会

(エ) 各国首脳等と道民との交流事業

～「未来への夢、世界との絆」プロジェクト～

①概 要

サミットを契機に、G8各国首脳等と道民の地域レベルでの交流を実現し、地域の国際化や北海道に関する情報発信の促進を目的に「未来への夢、世界との絆」プロジェクトを実施した。

道内各地にあるG8各国との間でこれまで培われてきた歴史、文化などの様々な「絆」を生かし、新たな交流につなげるとともに、既存の交流の拡大に向けた契機とするため、道内全市町村に交流プログラム案の募集を行ったところ、20市町村から合計27件の交流プログラム案の提案があり、各国大使に対する要請、提案市町村による各国大使館の訪問や交流、G8の先遣隊歓迎夕食会など、様々な機会を活用し要請を行った。

これにより、カナダ首相夫妻や各国駐日大使の各地訪問が実現し、地元住民等との幅の広い交流が図られた。

②交流事業の実施状況

〈G8首脳への訪問〉

平成20年7月7日、ハーパー・カナダ首相夫妻がカナダ・レイクカウチン町と姉妹提携20周年を迎える伊達市を訪問し、交流が行われた。首相夫妻は、知事、伊達市長夫妻、地元の幼稚園児の手旗や青少年による和太鼓演奏等により盛大に出迎えられた後、伊達市とレイクカウチン町の学生による「子ども環境サミット」に参加した。



伊達市を訪れたハーパー首相夫妻

なお、ハーパー首相夫妻の訪問を記念して、子ども環境サミットの会場が「ハーパー・ホール」と命名された。

〈各国大使への訪問〉

7月 8日 フォール駐日フランス大使夫妻が、共和町、室蘭市、壮瞥町を訪問
フライ駐日英国大使が、室蘭市、洞爺湖町を訪問

7月10日 デア駐日ドイツ大使が、千歳市を訪問

(オ) アウトリーチ各国首脳等と道民との交流

アウトリーチ各国に対しても、首脳等の来道のを機会を捉え、各国と北海道との一層の関係強化に向け、様々な機会を活用し、各国に対する要請や情報提供を行った。

この結果、ナイジェリア大統領夫人及び国連事務総長夫人が札幌市、インド首相夫人が札幌市、小樽市、中富良野町及び富良野市、インドネシア大統領夫人が白老町、恵庭市及び札幌市、メキシコ大統領夫人が札幌市及び小樽市を訪問し、関連施設の視察及び関係者との交流を行った。

(カ) 記念植樹

サミットの開催を記念するとともに、地球環境保全の取組みに向けた北海道からの発信として、高橋知事の案内のもと、7月8日にG8各国首脳がザ・ウィンザーホテル洞爺にて、また、7月9日にはG8各国首脳の配偶者が地元の子ども達とともに洞爺湖町・有珠山噴火記念公園にて、記念植樹を行った。

植樹の樹種には、道立林業試験場がカラマツとグイマツを交配して育種開発した、二酸化炭素固定能力の高いグイマツ雑種F1「クリーンラーチ」を選定した。「クリーンラーチ」の名称は、サミットの開催を記念し「地球温暖化防止に貢献するこれからの時代にふさわしい」というイメージで道民に公募した中から選ばれ名付けられた。



G8首脳による植樹



首脳配偶者による植樹

4. 連携事業

(1) 雪まつり・冬まつりでの情報発信

サミットを契機に将来に向けた飛躍的な北海道観光の振興を図るため、官民の団体から構成する「G8北海道洞爺湖サミット『雪まつり・冬まつり事業連携会議』」を組織し、さっぽろ雪まつり及び道内主要冬まつりにおいて、主に海外からの観光客を対象に、サミット開催と北海道観光の魅力を発信するPR事業（PR用ブース等での幟・ポスターなどの掲示、リーフレット配付、通訳接客スタッフによる観光案内等）を行った。

また、さっぽろ雪まつりに訪れる道内外の観光客等を対象に、JR札幌駅南口広場において、サミットの主要議題である環境問題についての取組紹介、本道の食と観光の魅力を発信する事業（PR展示テントの設営、木質ペレットストーブの実演展示、観光パンフの配付等）を行い、歓迎機運の醸成を図った。



さっぽろ雪まつり(サミット・観光振興PRブース) さっぽろ雪まつり(サミットステージでののぼり活用)

(2) 北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008

環境問題が主要テーマとなる北海道洞爺湖サミット開催を契機として、豊かな自然環境に恵まれた開催地北海道から、日本最先端の環境技術や本道の環境への取組等を世界に向けて発信するため、「北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008」が開催された。来場者は当初見込みの6万人を超え、約8万4千人となった。

〈開催概要〉

開催期間：平成20年6月19日（木）～6月21日（土）

開催場所：札幌ドーム

主催：北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008実行委員会

来場者：3日間計 83,742人

内容：①環境展示

「環境啓発・エコライフ」、「バイオマス・新エネルギー・省エネルギー」、「環境技術・コンサルティング」、「廃棄物処理・リサイクル」の4ジャンルについて、企業、団体、官公庁、NPO等 333社・団体が760小間で展示。

②イベント

環境をテーマにした計29の各種イベントを行った



オープニングセレモニー

③環境フォーラム in 北海道

環境に関係する20のフォーラム、セミナーを開催した。

④エコ体験イベント

子ども達が楽しみながら環境について学ぶことができる体験教室を計14回開催した。



子ども達で賑わうエコ体験広場

⑤エコカー展示・体験試乗会

燃料電池自動車、クリーンディーゼル自動車など19台の環境対応車の展示・試乗等を実施した。



屋外会場でのエコカー展示・体験試乗

⑥ビジネス交流会

ビジネスマッチングの機会創出のために行った「ビジネス交流会」には、出展社のうち118社、延べ200人が参加し、交流を深めた。

(3) 花いっぱいでお迎えプロジェクト

サミット開催にあたり、美しい花々で、来道する方々を歓迎するため、「北海道『花いっぱいでお迎え』プロジェクト」を行うこととし、洞爺湖町をはじめとする関係機関や民間団体等で構成する連絡調整会議を設置し、推進構想を策定するとともに、平成20年4月22日に開催された「キックオフ(kick-off)セレモニー」を合図に、道内各地で、行政、企業、住民が一体となった「花と緑あふれる北海道」の素晴らしさを広く国内外に発信する取組みが展開された。

道路沿線の植樹帯への花植えやプランターの設置などをはじめ、新千歳空港近隣では千歳青年会議所などが中心となって「花の地上絵」を作成し、航空機で来道する方々をお迎えしたほか、JR北海道では、100を超える多くの駅で、地域の方々が「花の駅長さん」となって駅を花で飾るおもてなしの取組みを行った。

道内企業から花観光地マップや花の種等の協賛をいただき、6月に開催された「北海道洞爺湖サミット総合環境展2008」では、花観光ブースを出展し、全道各地の花観光地のPRを行った。



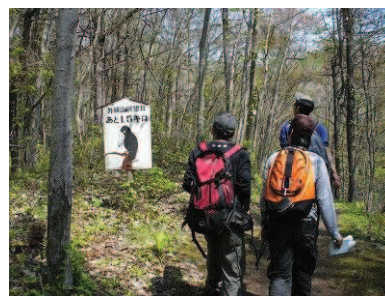
北海道花いっぱいでお迎えプロジェクト
キックオフ(kick-off)セレモニー



千歳「花の地上絵」プロジェクト

(4) 北海道フットパス

北海道の豊かな自然環境でのおもてなしの一環として、サミット開催前・期間中に洞爺湖周辺地域を訪れるプレス関係者も含む国内外のサミット関係者の利用を促進するために、西胆振地域1市3町で「フットパス・エコツーリズム振興実行委員会」を設立し、国関係機関、北海道経済連合会、北海道観光振興機構、道民会議などと連携しながら、洞爺湖周辺地域をモデル地域として、北海道フットパスの振興に取り組むこととした。



フットパスコースを歩く旅行者

有珠山周辺地域及び洞爺湖周辺エリアにおける6つのモデルコースを設置し、標識杭などを整備するとともに、エリアガイドマップ等を作成し、サミット期間中においても洞爺湖ふれあい情報TOWNなどで配布することにより、積極的にPRを行った。

(5) 洞爺湖ふれあい情報TOWN

国内外から訪れるサミット関係者を歓迎し、暖かくおもてなしするため、洞爺湖温泉街に「洞爺湖ふれあい情報TOWN」が設置された。



来場者で賑わう「ふれあい情報TOWN」

設置主体：北海道洞爺湖サミット胆振地域推進会議

開設期間：平成20年7月1日（火）

～7月10日（木）

内容：胆振地域を中心とした北海道の魅力や最新の環境技術をはじめ、幅広い情報発信を行った。

- ① ツーリング・インフォメーション・センター
- ② 豊かな自然を満喫しながら「日本文化」を体験するコーナー
- ③ 胆振地域の情報発信コーナー
- ④ 胆振地域のECO展

運営：外国語が話せるボランティアスタッフ延べ882名が対応

入場者数：合計2,719名（内、外国から：476名）

(6) おもてなしクリーンアップ運動

サミットに対する全道的な気運醸成と、よりよい環境で来道者の皆さんをお迎えすることを目的に、清掃活動や普及啓発活動を展開した。

運動にあたっては、これまで率先して清掃活動に取り組んできた活動団体の協力を得て、道内各地で行われる取組を尊重し、互いに連携を図りながら、「北海道洞爺湖サミット・おもてなしクリーンアップ運動実行委員会」が主催し、道内全域において平成20年2月からサミット開催までの期間で実施した。

全道で延べ約32万6千人の方々が清掃活動に参加いただいた。

〈主な活動〉

○北海道クリーン作戦

開催趣旨：地域住民、業界、市町村、関係機関・団体等が一体となって、啓発、清掃、回収再利用等を行い、空き缶、紙くず等の散乱防止と資源リサイクルを推進する。

主催者：北海道クリーン作戦推進会議（事務局：（財）北海道地域活動振興協会）

メインデー：「ポイ捨てゼロの日（平成20年度は4月27日（日）」

強調期間：メインデーを挟む前後約2週間

○ラブアース・クリーンアップ in 北海道2008

開催趣旨：一定の期日に一斉に清掃活動を行うことで、道民の連帯感を育み、身近なごみ問題から地球環境問題への啓発にもつながる行動を行い、よりよい北海道の自然環境を次世代に引き継いでいく。

主催者：NPO法人北海道市民環境ネットワーク

メインデー：「北海道が一番きれいになる日（平成20年度は6月1日）」

実施期間：4月22日（火・アースデー）

～6月30日（月・環境月間最終日）

5. 消防・保健医療

(1) 消防

サミットの円滑な運営に万全を期するため、地元消防機関に道内外から応援を受けて部隊を編成し、各国要人等が集まる施設等の警戒活動をはじめ、関係施設に対する予防査察や訓練指導等を実施するなど、開催地における消防・救急体制を確立し、消防特別警戒活動を実施した。

(ア) 警戒期間及び規模

消防特別警戒期間は、平成20年7月5日（土）から7月11日（金）までの7日間で、警戒の規模は、警戒隊77隊（車両74台、ヘリコプター3機）・警戒人員(消防職員)796人で組織した。

また、総務省消防庁職員29名、北海道職員44名も応援にあたった。

(イ) 警戒結果

出動件数は、ヘリコプターによる首脳級1名の救急搬送を含め、6件であった。

要人警戒件数は46件で、各国要人の航空機、自動車、ヘリコプターでの移動時における警戒、首脳や配偶者の現地行事における警戒を実施した。

予防警戒員の対応件数は39件で、煙センサーや防火扉のセンサー等の作動に対応し、原因特定、対処活動を実施した。

(ウ) 事前活動

主会場をはじめとする警戒対象施設等の現地調査や従業員に対する指導などを実施した。また、主会場等関係施設において事前訓練を実施し、消防特別警戒体制を確立した。

(2) 保健医療

平成19年10月、北海道洞爺湖サミット推進本部に保健医療対策部会（部会長：北海道保健福祉部長）を設置し、保健医療対策の推進体制及び実施体制の確立のため総合調整を行った。

健康被害発生予防対策として、サミット開催前は、感染症発生情報の収集体制強化等感染症対策、飲食店・宿泊施設等の監視指導等食品・環境衛生対策、血液製剤・医薬品等の供給対策、毒物劇物対策、水道の事故・災害対策などに取り組み、開催期間中は、本庁関係課及び関係保健所において、緊急時に備え24時間連絡体制を確保した。また、サミット参加者に対する救急医療を確保するため、国とともに必要な救急医療体制の構築・整備を図り、開催期間中は、関係医療機関等に対し指揮・命令、連絡調整等を行う現地医療対策本部に、保健福祉部長が副本部長として参画するとともに、道内外から約160名の医療関係者の協力も得ながら必要な救急医療体制を確保した。

7月6日から10日までの期間、関係保健所からの健康被害発生状況定時報告によるサミットに関連する健康被害はなかった。また、関係医療機関等からの救急患者受入報告（7月6日から9日までの9時及び18時に報告）による救急患者数は63名、うちヘリコプターによる空路搬送は1名（7月7日、首脳級1名）であった。